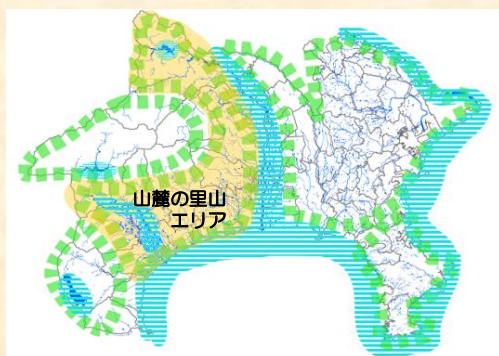


エリアごとの課題と現状

※ 写真やイラストは仮のイメージ

山麓の里山エリア

【関係する主な生態系】



里山・農地
生態系



丹沢山麓の北東部から相模川以西の一带と大磯丘陵、丹沢山麓南部、酒匂川上流の箱根山麓周辺のエリアで、集落と農地周辺の二次林に加え、水路、ため池などを要素とした里山・農地生態系を中心として構成されています。

■ 現 状

農林業や薪炭採取等に利用されてきた農地や二次林等が、1960年代以降、産業構造や生活様式が変化する中で使われなくなり、植生遷移が進むことによる環境変化などによって、里地里山に生息・生育する身近な生きものの減少や、農地周辺の藪を隠れ場所にした野生鳥獣による農業被害などが生じています。



ニホンザルによる農作物被害
(〇〇市〇〇)



手入れが不足した人工林
(〇〇市〇〇)

県では2007(平成19)年に「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」(以下「里地里山条例」という。)を定めて里地里山の保全活動への支援等に取り組むとともに、地域における農地等の保全活動への支援、環境保全型農業※の推進、野生鳥獣との棲み分けに向けた対策などに取り組んできました。今後もこれらの対策を進めることにより、里地里山や農業の有する多面的機能※を発揮させ、野生鳥獣との棲み分けなどを図っていく必要があります。



耕作放棄地の再生活動
(相模原市小松城北)

(課題のイメージ)



■ 課 題

- 人工林や雑木林を適正に管理するとともに、木材利用の推進等を図る必要があります。
- 農業の担い手不足や資金不足の解消を図る必要があります。
- 野生鳥獣と共存するため、鳥獣と人の生活の場との棲み分けを推進する必要があります。

ウ 山麓の里山エリア

丹沢山麓の北東部から相模川以西の一帯と大磯丘陵、丹沢山麓南部、酒匂川上流の箱根山麓周辺のエリアで、集落と農地周辺の二次林に加え、水路、ため池などを要素とした里山・農地生態系を中心として構成されています。

農林業や薪炭採取等に利用されてきた農地や二次林等が、1960年代以降、産業構造や生活様式が変化する中で使われなくなり、植生遷移が進むことによる環境変化などによって、里地里山に生息・生育する身近な生きものの減少や、農地周辺の藪を隠れ場所にした野生鳥獣による農業被害などが生じています。

県では2007(平成19)年に「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」（以下「里地里山条例」という。）を定めて里地里山の保全活動への支援等に取り組むとともに、地域における農地等の保全活動への支援、環境保全型農業^{*}の推進、野生鳥獣との棲み分けに向けた対策などに取り組んできました。

今後もこれらの対策を進めることにより、里地里山や農業の有する多面的機能^{*}を発揮させ、野生鳥獣との棲み分けなどを図っていく必要があります。



耕作放棄地の再生活動^{*}
（相模原市小松城北）